

板橋区における障がい者虐待の通報等受付状況

1 受付場所別の内訳

受付場所	令和3年度	令和4年度（9月末）
虐待防止センター	23	12
虐待電話相談窓口（夜間等）		4
福祉事務所（3ヶ所）	6	3
健康福祉センター（5ヶ所）	3	2
障がい政策課	12	8
予防対策課	0	0
その他（東京都、警察等）	0	1
合 計	44	30

2 相談・通報・届出者の内訳

相談・通報・届出者	令和3年度	令和4年度（9月末）
障がい者本人	13	8
家族・親族	3	1
近隣住民・知人	3	2
福祉サービス関係者	17	15
医療関係者	2	2
行政・教育機関	4	1
その他（労働局、警察、元支援員等）	2	1
合 計	44	30

3 被虐待者の障がい別内訳 （令和4年度については令和4年9月末現在の件数）

※ 通報時本人より申告のあった種別（重複障がいは、それぞれに計上）

障がい	身体		知的		精神(発達含)		不明	
年度	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4
人数	11	5	23	9	17	16	0	1

4 虐待者の内訳

虐待者	令和3年度		令和4年度（9月末）	
	総件数 （実件数）	虐待認定 件数	総件数 （実件数）	虐待認定 件数
養護者	24	6	16	4
障害者福祉 施設従事者等	13	1	11	1
使用者	1	0	1	0
その他	6		2	
合 計	44	7	30	5

※虐待認定件数について、9月末において、調査中のものは含めない。

5 令和4年度 通報・相談のうち、虐待認定したケース事例※抽出（虐待程度については、「資料1-2 虐待の程度一覧表」参照）

NO	虐待種別		内容	状況・対応等
1	養護者	経済的	<p>本人意向により、グループホーム入所に向けた準備をすすめていたところ、自身の貯蓄していたお金、給与を含め、無断で多額の金額が引き出されて、通帳残高がほとんどないことを確認した。</p>	<p>【緊急性：有】</p> <p>グループホームの入所を予定していたが、本人のお金がほとんどない状況を確認。早急にお金を守る援助等の必要があるため、緊急性有りと判断した。</p> <p>【虐待認定：有】</p> <p>家族が無断でお金を引き出していること、多額の金額であり生活に支障がでてきていること、使途について、家族の嗜好物による浪費である可能性が高いという状況を確認。虐待有りと判断した。</p> <p>【虐待程度：重度～中等度】</p> <p>年金、給与等の多額の搾取により、生活費含めグループホームの入居準備費用に影響が生じていたため、重度～中等度と判断した。</p> <p>【対応】</p> <p>キャッシュカードを止め、通帳を本人管理とした。グループホームに転居し、生活が落ち着くまで、通所先で金銭管理を支援することとした。また家族について、他支援機関と連携を図り、支援に繋げた。</p>
2	養護者	身体的	<p>テレビに依存傾向のある当事者に対して、テレビを制限していたところ、勝手に見ていたという理由で、養護者が感情的になり、本人を叩く、蹴るなどの行為をしてしまったという内容が発覚した。</p>	<p>【緊急性：有】</p> <p>心身の健康に著しい影響が生じる可能性のある身体的な暴力行為のため、緊急性有りと判断し、早急に家族、本人に聞き取り調査を実施した。</p> <p>【虐待認定：有】</p> <p>介護負担等を理由に、感情的になり、叩く、蹴るなどの行為を認めている。虐待有りと判断した。</p> <p>【虐待程度：重度～中等度】</p> <p>内出血等はないが、叩かれた度合、これまでの頻度等を鑑み、重度～中等度と判断した。</p> <p>【対応】</p> <p>自宅、家族から離れたくないという本人意向に基づき、養護者に福祉サービス</p>

				<p>等追加、医療機関との連携等の助言を行い、虐待の自覚が乏しい（しつけと称して幼少の頃から両親が手をあげていた）ため、虐待について指導をする。</p> <p>今後エスカレートする可能性があり、本人の自立を促すために、グループホームや一人暮らしの案内、また、今後に備えて、障がい支援区分の認定等を実施する。</p>
--	--	--	--	---

6 令和4年度 通報・相談のうち、虐待認定以外のケース事例※抽出

NO	虐待種別		内容	状況・対応等
1	養護者	心理的	兄弟と比較され、暴言等言われて育った。医療機関に受診しているうちに、今まで養護者に虐待を受けていたと気づいた。	<p>【緊急性：無】</p> <p>暴言などの心理的虐待を受けているため、「実家から出たい。」「保護して欲しい。」等の主訴。聞き取り状況より、日常生活の安全は、保障されていることを確認。緊急性無しと判断した。</p> <p>【虐待認定：虐待有無判断はしない】</p> <p>本人意向により養護者への聞き取りができず、また、幼少期の出来事が主たる相談となっているため、事実確認は行わず、虐待有無の判断はしない。</p> <p>【対応】</p> <p>相談時点で、手帳や自立支援医療の受給者証等はなく、障がい支援区分の取得が困難であったことから、福祉サービスの利用には至らず。宿所提供施設（「生活保護法」にもとづく保護施設）等の公的制度を案内。公的施設の利用に繋がらなかったが、継続的な相談ケースとして、各所管で対応している。</p>
2	社会福祉施設従事者等	身体的	支援員が、ペンで利用者の頭を叩いたと報告を施設より受けた。	<p>【緊急性：無】</p> <p>既に施設で事実確認を行っており、施設から当利用者や家族に説明、謝罪、職員に虐待防止の指導、接遇の改善指導などについて、取り組んでいる状況であったため、緊急性無しと判断した。</p> <p>【虐待認定：不適切支援と判断】</p> <p>頭を叩く行為は認められるが、意図的ではなく、コミュニケーションの過程で、数回ペンで軽く叩いたという内容であったため、不適切支援と判断した。</p> <p>【対応】</p> <p>施設が既に改善に取り組んでいる内容の報告を受けるとともに、法人の職員会議等を通じて、今回の案件について、施設内で再発防止に向けた周知徹底を図るように指導した。</p>